

日本語の複合動詞と韓国語の副詞との 対応関係に関する研究*

李忠奎**

〈 Abstract 〉

A Study on the Correspondence between Japanese Compound Verbs and Korean Adverbs

The purpose of this study was to identify adverbs in Korean corresponding with compound verbs in Japanese and provide a list of them. To this end, this study collected a total of 13,693 examples from 62 books, built a database, and conducted a detailed analysis to classify examples of correspondence with adverbs in Korean as follows: (J:Japanese; K:Korean; V1:the first verb; V2:the second verb; Adv:adverb):

- 1) 「J(V1+V2)⇒K(Adv+V1)」 (e.g. *aruki*+*tuzukeru*⇒*gyesog*+*geodda*)
- 2) 「J(V1+V2)⇒K(①Adv+V, ②V)」
(e.g. *kanngae*+*komu*⇒*golltolhi*+*saenggaghada*, *sinobi*+*komu*⇒*mollae*+*deul-eogada*, *moush*+*komu*⇒*sincheonghada*)
- 3) 「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」 (e.g. *uchi*+*makasu*⇒*wanjeonhi*+*paebaesikida*)
- 4) 「J(V1+V2)⇒K(V)」 (e.g. *sibari*+*tukeru*⇒*kkongkkong mukkada*⇒*mukkada*)

The lists of compound verbs in Japanese and adverbs in Korean presented for each type may serve as useful reference materials in the fields of Japanese and Korean education and make full contributions to further studies on compound verbs in Japanese.

Field : Other Japanese Studies

Keywords : Japanese compound verb, Korean adverb, Correspondence, Japanese education, Korean education

1. はじめに

日本語らしい日本語を駆使するための一つの課題として、複合動詞に関する正確な理解と習得が挙げられる。しかし、日本語の複合動詞は、韓国国内の日本語教育の現場で重要な学習項目として取り扱われていない。また、それらを体系的に習得するための参考資料も不十分な現状である。従って、韓国人日本語学習者(以下、韓国人学習者)を念頭に置いた複合動詞に関する研究は必要であり、今後、様々な観点からの考察を通してその成果を蓄積していくことは、複合動詞の運用能力の向上に繋がる重要な課

* This work was supported by the Ministry of Education of the Republic of Korea and the National Research Foundation of Korea (NRF-2017S1A5A2A01024392)

** 西原大 助教授、対照言語学

題であると言える。

このような認識のもとで、本稿で焦点を当てるのは対応関係という観点から、1)韓国語と1対1で対応しない、2)韓国語の「副詞+動詞」形と関連付けられる、という二つの条件を考慮して選定した複合動詞である¹⁾。具体的には以下のようなものである。

- (1)a. 叶わない夢を追い続ける。
 b. 이루어지지 않을 꿈을 계속 쫓는다. (달인 : 451)
- (2)a. 例年となく朝晩冷え込むでしょう。
 b. 예년과 다르게 아침저녁으로 아주 추워지겠습니다. (딱600 : 138)
- (3)a. 彼は突っ立ったままだった。
 b. 그는 우뚝 선 채였다. (중학교 상 : 62, 63)
- (4)a. 会議を抜け出す。
 b. 회의를 살짝 빠져 나오다. (끝내기 : 490)

日本語の作文過程において韓国人学習者は、(1b)と(2b)のそれぞれの下線部を「続けて追う」「とても冷える、とても寒くなる」のように訳してしまう可能性があり、これらの訳は「追いつける」「冷え込む」のような複合動詞形の習得を難しくする原因となり得る(生越1984 : 55-56)。「生き残る⇔살아남다」のようにV1とV2とが1対1で対応する例と比べると、「追いつける」「冷え込む」のような例は韓国人学習者には相対的に要注意の複合動詞と言えるが、「冷え込む」の場合は「景気は急速に冷え込んだ→경기는 급속하게 침체되었다」(다다이선 : 16, 214)のように「名詞+動詞」形にも訳せる、という点で「追いつける」とはまた区別できる。この2例と比べて、(3a)の「突っ立つ」はV1「突つ」が韓国語の副詞と関連があり、また別の類型として見ることができる。一方、(4a)の「抜け出す」は「副詞+動詞」形に訳されているが、当該の例が〈抜けて出る〉(『大辞林』第三版)という意味であることを考慮すると²⁾、韓国語の対応形としては「빠져 나오다」で十分であると判断される。もし、「살짝」という副詞の意味が「抜け出す」の必須の意味に含まれるのであれば、「苦境を抜け出す」は「곤경을 살짝 빠져 나오다」のような訳が考えられるが、これを正確な対応形と認めることは難しい。日本語の複合動詞の正確な理解のためには、このような例における「副詞」の存在についても検討する必要がある。

そこで本稿では、前述の条件を考慮して選定した(1)~(4)のような複合動詞を対象にし、「追いつける」「冷え込む」「突っ立つ」「抜け出す」のそれぞれの例と同様に分析できる例を抽出して考察する。そして、日本語の複合動詞と韓国語の副詞との対応関係という観点から、「~続ける⇒①계속196(줄곧1)~하다」「~込む⇒①곧똥히9(딱7·깊숙이4·철저히4·가득3·깊이3·푹3·계속2·몹시2·아주2·잘못2·넵다1·많이1·붙숙1·웁푹1·잔뜩1·철석같이1·한꺼번에1·함께1·홀딱1)~하다, ②몰래5(쑥5·깊이3·마구1)~하다, ③~하다」のような目録を作成し、提示することを目的とする。なお、副詞の右側の数字については後述する。

1) 二つの条件は、1)前項動詞(V1)と後項動詞(V2)が韓国語と1対1で対応する例より、1対1で対応しない例を考察する方が、韓国人学習者により有益な結果を提供することができる、2)韓国語の「副詞+動詞」形に訳されている実例が比較的好く観察され、そのような例を対象にして分析した結果は、日本語の複合動詞の正確な理解と習得に貢献できる、という判断から設けた。

2) 「抜け出す」は形態構造的には「非能格自動詞+他動詞」の組み合わせであるが(影山1993 : 137)、意味構造的には「非能格自動詞+非能格自動詞」と分析される点は興味深い。

2. 先行研究

日本語の複合動詞に関する研究としては、影山(1993)や姫野(1999)などが代表的なものとして挙げられるが、対応関係というキーワードで、日本語の複合動詞と韓国語の副詞との関係について詳細に考察した対照研究は、生越(1984)の他にほとんど見当たらない³⁾。以下、先行研究として生越(1984)を概観する⁴⁾。

生越(1984)は日本語の複合動詞後項となる動詞のうち、日本語教育に重要だと思われる比較的生産性のある37語を取り上げ、対応関係という点に焦点を当てて考察したものである。具体的には37語の複合動詞のV2が韓国語(原文では朝鮮語)ではどのような対応関係を見せるのかを考察し、(I)日本語のV2に対し、韓国語では副詞・副詞的な語句が対応する場合と、(II)日本語のV2に対し、韓国語では副詞や副詞的な語句によらない全く別の表現形式が対応する場合に大別できることを指摘している。さらに、日本語のV2をその意味によって、動作の成立を表すとともにその動作がどういう性格を帯びているかをも表すAタイプ、動作の成立・未成立のみを表すBタイプ、ある時点における動作の成立やその性格について無関係なCタイプに分け、最終的には以下のように分類している⁵⁾。

〈表1〉 生越(1984: 62)における37語の分類

対応の型-V2のタイプ	具体例
I-A	合う、上げる、誤まる、終える、終わる、返す、切る、こなす、すぎる、たりる、違う、違える、尽くす、つける、続ける、通す、直す、抜く、まくる、間違える、間違う
I-A・II-B	遅れる、落とす、そこなう、そこねる、そんじる
II-B	得る、かかる、かける、かねる、そびれる、出す、残す、始める、忘れる
II-C	飽きる、慣れる

以上の結果から同氏は、日本語のV2のうち、意味の上で韓国語の副詞・副詞的な語句と対応するのはAタイプのV2であり、韓国語を母語とする日本語学習者に対して副詞や副詞的な語句の指導を行うときには、特にAタイプの複合動詞後項の用法に留意しつつ教える必要があると指摘している。

生越(1984)は、複合動詞を対象とした対照研究としては比較的初期のものとして意義がある。また、「～たりる」を生産性のあるものとして含めているという問題はあるものの(李2018: 77)⁶⁾、考察結果を

3) 羅聖栄(1982)・兪長玉(1993)・卞相範(2004)・박용일(2010)・양호성(2013)などにおいても日本語の複合動詞と韓国語の副詞との対応関係が認められる具体例は確認できる。ただ、これらは日本語の複合動詞が韓国語でどのように対応するのかについて、その対応関係の類型化を試みたものであり(李2015: 177-178)、日本語の複合動詞と韓国語の副詞との対応関係に焦点を当てて考察したものではない。これらの先行研究と比べて、本稿は考察範囲を冒頭の二つの条件を満たすものに限定して、より精密な分析を試みようとするものである。

4) 以下の概観は李(2015: 168-170)を再録したものである。ただし、適宜修正を加えたところがあり、また、問題提起として新たに付け加えた記述もある。

5) 表1における「I-A・II-B」とは、同一のV2が文によってI-Aタイプになったり、II-Bタイプになったりするものである。

6) 後述するように本稿で構築したデータベースには13,693件の複合動詞の例が収録されているが、「～たりる」は「満ち足りる」(6달년: 112)のたった一例しかない。なお、李(2018: 77)は「間違える」と「間違う」は複合動詞の後項になり得ないと断言しているが、本稿の調査では「書き間違える・乗り間違える・見間違える・読み間違える・見間違う」のような例が観察された。

日本語教育に活用できるような形で整理することによって、複合動詞に関する対照研究の成果が日本語教育の分野に貢献できる可能性を提示したことは高く評価することができる。ただ、より多くの例を対象に考察し、また、分析結果を韓国人学習者により分かりやすい形で提供できれば、その成果は韓国の日本語教育に有用な情報となるはずである。以下、本稿では、生越(1984)と比べて、「考察範囲の拡大⁷⁾」「韓国人学習者に分かりやすい形で提供」という2点を差別化ポイントにして、対照分析を行う。

3. 調査対象と考察方法

3.1 調査対象

調査対象は、JPT・JLPT日本語能力試験対策用の語彙集と問題集(39冊)・「다락원」から出版された日韓対訳文庫の中級・上級シリーズ(20冊)・会話教材など(3冊)の計62冊である。これらの選定においては基本的に、1)日本語の複合動詞に対する韓国語訳が付されていること、2)認知度を考慮し、2版以上のものを原則とするが、初版の場合は2刷以上のものであること⁸⁾、3)韓国国内における語学(外国語)専門の大手出版社の教材であることの三つの条件を考慮した。ただし、後続研究を念頭に置いて日本で出版されたものも1冊追加した。なお、各教材の著者・題目・出版社・略語などの詳細な情報は、末尾の〈用例採集の資料〉を参照されたい。

3.2 考察方法

調査対象の教材から手作業で日本語の複合動詞とそれに対応する韓国語訳を採集した。その結果、合計13,693件の複合動詞の用例とその韓国語訳が採集できた⁹⁾。そのうち、前述した、1)韓国語と1対1で対応しない、2)韓国語の「副詞+動詞」形と関連付けられる、という二つの条件を満たすものを本稿の考察対象にした。

具体的な考察方法としては、採集した対応形を批判的な検討なしにそのまま整理するのではなく、複数の辞書から複合動詞・V2・V1のそれぞれの意味を確認した上で、同一の複合動詞・同一のV2・同一のV1が用いられている他の用例を相互比較しつつ分析した。その一例として、「年々減り続く→매년 줄어든다」(달인: 352)のような例の場合、表面上では「動詞+動詞」形に訳されているが、「年々減り続く→매년 계속 준다」のような対応関係が成立するため、本稿では「副詞+動詞」形と関連付けられるものと見做した。また、「難しい本を読み熟す→어려운 책을 마음대로 읽다」(KING: 718)の場合、「~熟す」の〈(他の動詞の下に付いて)その動作を楽々としてしまう。巧みにする〉という意味と「마음대로」の〈하고 싶은 대로〉という意味を考慮すると、当該の文は「어려운 책을 (충분히 이해할 수 있을 정도로) 쉽게 읽는다」のように訳するのが適切であると思われる。従って、本稿では「~熟す→마음대로 ~하다」のような対応関係を認めなかった。このような考察方法を通して最終的には、副詞優先の包括的な韓国語の対応形を提示する、という形で本稿の目録作成を試みた。

7) 1節で述べた二つの条件を考慮して選定したものを対象にするので、脚注3の先行研究よりは考察範囲が限定されることになり、その上で、生越(1984)の37語より考察範囲を広げた拡大である。

8) ただし、初版1刷の教材であっても、必要により例外的に調査対象に含めたものもある(李2017a: 93)。

9) Excelを利用して構築した「韓国人のための複合動詞データベース」に収録されている。なお、同データベースの詳細については、李(2017b)を参照されたい。

なお、次節における具体的な分析は複合動詞に関する代表的な記述的研究と言える姫野(1999)を援用し¹⁰⁾、個別例の意味を明示する際は『大辞林』(第三版)・『デジタル大辞泉』・『표준국어대사전』の語釈を引用した。また、対応形として生起する韓国語の副詞は、原則として『표준국어대사전』に収録されているものに限定した¹¹⁾。この基準により「褒め過ぎる→지나치게 칭찬하다」(달인: 185)・「信じ込む→굳게 믿다」(VOCA: 357)に見られる下線部は副詞の範囲に入らない。

4. 具体的な類型分類

合計13,693件の複合動詞の用例のうち、表面上「副詞+動詞」形に訳されているものは1,488例であった。この他に「若者はやはり黙ってどしどしと歩き続けた→젊은 남자는 역시 잠자코 무뎌뎌 걸기 시작했다(引用者注: 계속 걸었다)」(교과서: 23, 94)のような誤訳とも言えるものや「作家はたった一日で原稿を全て書き上げた→작가는 단 하루만에 원고를 모두 썼다(引用者注: 모두 다 썼다)」(단어장2: 186)、「困ったときは互いに助け合う→곤란할 때는 서로 돕는다(引用者注: 서로 서로 돕는다)」(완벽N1: 54, 7)のように共起する副詞「全て、互いに」の影響によって、V2「上げる、合う」に対応する副詞「다, 서로」が生起していないと分析できるものもあった。このような例も「副詞+動詞」形と関連付けられるものとして含めることができ、結論的に本稿で綿密に考察した対象は1,488例よりかなり多いことになる。以下、冒頭の「追い続ける」「冷え込む」「突っ立つ」「抜け出す」をそれぞれ代表する一般化として、1)「J(V1+V2)⇒K(Adv+V1)」類型、2)「J(V1+V2)⇒K(①Adv+V, ②V)」類型、3)「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」類型、4)「J(V1+V2)⇒K(V)」類型のような区分を設定し、代表的な例を中心に詳細な分析を試みる。なお、Jは日本語、Kは韓国語、Advは副詞を意味する。

4.1. 「J(V1+V2)⇒K(Adv+V1)」類型

この類型は日本語のV2が韓国語の副詞に対応し、その副詞が日本語のV1を前から修飾するものである。代表的なものとして「続ける」が挙げられる。当該の例は、非能格自動詞(歩く)・非対格自動詞(増える)・他動詞(持つ)とも共起することができ、「*うちのワンちゃんが3時間死に続けた後、この世を去った」のように、意味上の不整合が生じない限り、V1には「拒否する」「白を切る」のようなサ変動詞や慣用句も含めて数多くの例が許される¹²⁾。今回の調査では合計238件の用例が採集できた。

(5)a. 一日中歩き続けてくたびれた。

10) 斎藤(2000: 141)は、姫野(1999)に対して「本書は紛れもなく語構成論における記述的研究の最良の見本の一つであり、筆者としては、これから語構成論をやろうとする若い人たちにぜひ一読することを勧めたい」と評価している。

11) ただし、「더 많이」のように、同辞書に収録されている単純副詞が連続しているものも考察対象に含めた。

12) 「死に続ける」も、例えば、複数の映画やドラマなどで死んでしまう役を演じた俳優に対して、「3年間死に続けた男」のように言う場合なら意味上の不整合は排除される。ちなみに、V1との接続に関しては、姫野(1999: 31)の以下の指摘も参照されたい。

「～続ける」は「である」にも結合するという特別な性質がある。「このような状況では誠実であり続けるのは困難である」のように人が意志的にとる態度や状態を表す場合に限られる。「波が静かである」「重病である」のような自然現象や生理現象を表現する場合には、「～であり続ける」という形は使えない。

- b. 하루 종일 계속 걸어서 지쳤다. (단어짚3 : 46)
- (6)a. 個人金融資産が増え続けている。
b. 개인 금융 자산이 계속 증가하고 있다. (한권 : 461)
- (7)a. あの方は、(中略)強い信念を持ち続けている様子でございました。
b. 그분은 (중략) 줄곧 강한 신념을 갖고 계신 모습이었습니다. (중학교 하 : 152, 153)

韓国語との対応関係という観点からみると、「～続ける」は、(5)と(6)のように「계속 ～하다」に訳されているのが大半である。238件の用例のうち、196例が「계속 ～하다」に対応しており、(7)のように「줄곧 ～하다」の対応形が1例あった。これらと比べて、(8)～(10)の例は、表面上「副詞+動詞」形に訳されていない例である。このような非副詞形の訳は41件の用例で確認された。

- (8)a. 彼女は歌い続けている。
b. 그녀는 계속해서 노래하고 있다. (KING : 52)
- (9)a. ぼくは、かまわず歌い続けた。
b. 나는 개의치 않고 노래를 계속했다. (6학년 : 88, 89)
- (10)a. 彼女はこれまで守り続けてきた秘密を明かした。
b. 그녀는 그동안 지켜왔던 비밀을 밝혔다. (단어짚2 : 174)

非副詞形の訳としては「계속해서 ～하다」「～를 계속하다」のような対応形と、(10)のようなV1の対応形のみ訳も見られたが、分析の上で整理のポイントになるのは、(8)～(10)の例も含めて、41件の全ての非副詞形において「계속 ～하다」「줄곧 ～하다」の訳が当てはめられる、という点である。結論的に、238件の「～続ける」全ての用例は、「副詞+動詞」形との対応関係が認められる。

以上の分析に従い、本稿では当該の例を「～続ける⇒①계속196(줄곧1)～하다」のようにまとめる¹³⁾。

なお、各副詞の右側の数字はその副詞が生じた用例数を意味する。このように示すことによって、当該の複合動詞が韓国のどの副詞と深い関係を持つのが容易に把握できる。

4.2. 「J(V1+V2)⇒K(①Adv+V, ②V)」類型

この類型は「副詞+動詞」形の他に、また、副詞形に訳しにくい非副詞形の訳も見られるものである。「副詞+動詞」形の訳は、4.1の「J(V1+V2)⇒K(Adv+V1)」類型のものが多く、「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」のように一般化できるものもある。「V」で一般化した非副詞形の訳は、単純動詞形・「動詞+動詞」形・「名詞+動詞」形など、様々な形態で見れる。この類型に属する具体例は他の類型に含まれる例より多い。生じた副詞の数と種類を考慮すると、代表的なものとしては「～込む」と「～切る」が挙げられる。

4.2.1 ～込む

語彙的複合動詞の中で造語力の第1位とされる「～込む」は、姫野(1999 : 59-82)の分類では「内部移

13) オクamura・임(2009 : 38)は当該例の対応関係を「～続ける⇒계속 ～하고 있다」のように示しているが、(6)から確認できるように、「～고 있다」の対応形としては「～ている」があるため、厳密に言うとその対応形は正確なものとは言えない。

動」と「程度進行」とに大別される。そして、後者はまた、V1の意味特徴によって、「固着化(動作・作用の進行の結果、ある状態に到ったまま固定化しているというもの)」「濃密化(程度が高まり、状態が昇進していくもの)」「累積化(何かの目的のため、人が動作や行為の積み重ねによりその技や対象とするものの質の向上を図るというもの)」に分けられる。今回の調査では合計1,041件の用例が採集できており、その中で、(11)と(12)は固着化の例、(13)は濃密化の例、(14)は累積化の例に該当する。

- (11)a. 真剣な顔で何か考え込んでいる。
 b. 진지한 얼굴로 무엇인가 골똘히 생각하고 있다. (끝내기 : 335)
 (12)a. 小僧は(中略)無法者の一隊がこっそりと忍びよってきたと思いこむんだ。
 b. 놈은 (중략) 무법자 일당이 몰래 잠입했노라고 철석같이 믿는 거야. (헨리 : 46, 124)
 (13)a. 今日是一段と冷え込んだ。
 b. 오늘은 한층 더 몹시 추워졌다. (VOCA : 424)
 (14)a. この魚は焼くより煮込んで食べた方がもっとおいしいそうだ。
 b. 이 생선은 굽는 것보다 푹 삶아서 먹는 편이 더욱 맛있다고 한다. (시나공 : 369)

(11)の「考え込む」は〈ある事について深刻に考える〉、(12)の「思い込む」は〈深く心に思う、そうだと固く信じる〉という意味であり、韓国語ではそれぞれ「골똘히 생각하다」「철석같이 믿다」と訳されている¹⁴⁾。また、(13)の「冷え込む」は「몹시 추워지다」に、(14)の「煮込む」は「푹 삶다」に対応しており、これらの例においては、V2「込む」と副詞「골똘히」「철석같이」「몹시」「푹」との対応関係が認められる。

(11)~(14)の例が「J(V1+V2)⇒K(Adv+V1)」のように一般化できるものであれば、(15)~(16)の例は「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」のように示せるものである。

- (15)a. ぼくは、その騒ぎに乗じて、ちゃっかり自分の席に忍び込んでやろうと、たくらんでいた。
 b. 나는 그 소란을 틈타 재빨리 내 자리로 몰래 들어가겠다고 계획했었다. (수업 : 16, 17)
 (16)a. 地面の穴に腕を突っ込んでいます。
 b. 지면의 구멍에 팔을 쑥 집어넣고 있습니다. (기출10 : 273, 134)

(15)の「忍び込む」は〈こっそりと人目につかないようにして中に入る〉、(16)の「突っ込む」は〈勢いよく入れる〉という意味であり、対応形の副詞「몰래」と「쑥」はそれぞれの下線部の意味を反映したものと考えられる。なお、この2例については4.3.で再び取り上げる。

- (17)a. 書類を記入して入会を申し込んだ。
 b. 서류를 기입하여 입회를 신청했다. (달인 : 178)
 (18)a. 舌がのどの奥に落ち込み、(後略)
 b. 혀가 목구멍 안쪽으로 쏟려, (후략) (모의N1 : 156, 122)
 (19)a. 今年に入って、売り上げが落ち込んだ。
 b. 올해 들어서 매출이 뚝 떨어졌다. (한권 : 506)

14) 이경수(2010 : 94-96)はイラストを活用して「思い込む」と「考え込む」を比較しており、意味上「思い込む」は要注意の複合動詞であると指摘している。

83件の用例が採集され、「～込む」の中では最も多かった「申し込む」の場合、「신청하다, 제의하다」のような訳が当てられており、当該の例が「副詞+動詞」形に訳されることはないだろう。74件の用例が得られ、個別例としては第2位の「落ち込む」は、(18)のように「～が～に落ち込む」文型で用いられているものが7例で、(19)のように「～が落ち込む」文型で用いられているものが67例であった。「～으로 쏘리다, ～에 빠지다」のように訳されている前者は「内部移動」の例に分類され、「落とし穴に、危険なはめに、泥沼に、深い穴に、両手に、会議の底に」といった二格名詞は着点を表すことになる。また、後者のガ格名詞としては「売り上げ、稼働率、観光、気分、業績、自給率、就職内定率、消費、成績、注文、内需、入荷、輸入、利用率」のようなものが観察され、これらの「～込む」は二格名詞をとらないため、「内部移動」の例には分類しにくい。副詞形の訳と関連するものとしては、(19)のような「뚝 떨어지다」という訳が幾つか見られ、この場合の「뚝」は、〈成績・業績などが悪い状態になる。目立って下がる〉という「落ち込む」の下線部の意味が反映された結果と考えられる。

以上の分析を踏まえ、採集した全ての対応形を検討して、当該の例は「～込む⇒①골똘히⑨(뚝7・깊숙이4・철저히4・가득3・깊이3・푹3・계속2・몹시2・아주2・잘못2・넵다1・많이1・불쑥1・움푹1・잔뜩1・철석같이1・한꺼번에1・함께1・홀딱1)～하다, ②물래5(쑥5・깊이3・마구1)～하다, ③～하다」のようにまとめる¹⁵⁾。①は日本語のV2が韓国語の副詞に、②は日本語のV1が韓国の副詞に対応するものであり、③は非副詞形に該当する。

4.2.2 ～切る

「～切る」には「完遂・極度」の意味用法と「切斷・終結」の意味用法とがある。通常、前者は統語的複合動詞に、後者は語彙的複合動詞に分類される。統語的複合動詞として用いられる場合は「～抜く」「～通す」と類似関係にあるが、結合するV1の範囲は二つの例より広い。また、可能の打ち消し形「～切れない」をとることが多いという点は、他のV2と区別される「～切る」の特徴である(姫野1999: 173-195)。

- (20)a. 分厚い世界名作全集を最後まで読み切った。
 b. 두툼한 세계명작전집을 끝까지 다 읽었다. (시나공: 314)
- (21)a. 스트레스で疲れきった精神を安定させる。
 b. 스트레스 때문에 완전히 지친 정신을 안정시킨다. (모의N2: 77, 63)

合計292件の「～切る」の用例のうち、(20)は完遂の例に、(21)は極度の例に該当する。両方とも「副詞+V1」形に訳されており、このように「J(V1+V2)⇒K(Adv+V1)」と一般化できるものは82例であった。「～込む」と対照的に、「～切る」には「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」と示せるものはない。

15) この整理には、上記の例の他に「沈み込む→깊이 가라앉다(한권N1: 244, 312)、入り込む→깊숙이 들어가다(실전N1: 23, 166)、教え込む→철저히 가르치다(완벽N1: 394, 109)、寝込む→푹 잠들다(독해: 166, 290)、詰め込む→가득 채우다(기출10: 256, 92)・잔뜩 채워넣다(VOCA: 48)、冷え込む→아주 침체되다(독해: 140, 227)、咳き込む→계속 기침하다(5학년: 36, 37)、投げ込む→넵다 던지다(헨리: 51, 125)、読み込む→많이 읽다(모의N1: 158, 123)、割り込む→불쑥 끼어들다(왕자 상: 90, 91)、落ち込む→움푹 들어가다(KING: 710)、紛れ込む→잘못 섞이다(실전: 105)、立て込む→한꺼번에 쌓이다(독해: 121, 267)、住み込む→함께 살다(吾輩: 27, 156)、ほれ込む→홀딱 반하다(러브: 76)、引っ込む→쑥 들어가다(명작: 69, 135)、突っ込む→깊이 파고들다(다다익선: 207, 288)・마구 집어넣다(끝내기: 343)のような対応形が反映されている。

- (22)a. 舌を噛み切って死ぬ。
 b. 혀를 깨물고 죽다. (합격 : 218)
- (23)a. 先頭を切って法律の改正に踏み切った。
 b. 앞장서서 법률 개정을 단행했다. (기출20독 : 497)

(22)と(23)は切断・終結の「～切る」である。両方とも副詞の対応形は生起せず、副詞形の訳への置き換えも難しい。(22)の「噛みきる」は〈物を噛んで切る〉という意味であり、韓国語の「물어 끊다」の訳を想定するのであれば、両者は1対1の対応関係を示すものとして、本稿の考察対象から除外される。しかし、(22)では適切な対応形として「깨물다」が当てられており、「혀를 물어 끊고 죽다」という文の不自然さも考慮して、本稿では1対1で対応しないものと見做した。ちなみに、当該の「깨물다」は、意味上「깨서 물다」ではなく「물어서 깨다」になるので、先に起こった出来事がV2に、後に起こった出来事がV1に位置した特殊な例と言える。韓国語の「건너뛰다, 떠오르다, 알아보다, 몰라보다, 알아듣다, 깨물다」のような例と日本語の「待ち伏せる、立て掛ける、泣き伏す」のような例も同様の分析が可能な例として挙げられ(김창섭1981 : 20-21, 이익섭・채완2001 : 70, 고영근・구본관2008 : 231, 李2013 : 111-113)、これらは「言語における一種の類像性(iconicity)」(由本2005 : 107)に整合しない例として興味深い。また、(23)の「踏み切る」は〈思い切って、物事に当たる。心を決めて物事に乗り出す〉という意味で、「단행하다」の他に「결단을 내리다, 결단하다, 결심하다, 결정하다」のような訳も見られた。「～に踏み込む」が「～을 단행하다」のように訳され、「～에 ~을/~를」の対応関係を示すのは、「友達に会う⇔친구를 만나다」「約束に背く⇔약속을 어기다」のような場合と同様であり、日本語教育現場では「*法律の改正を踏み切った」のような誤用が生じないよう、指導する必要があるだろう。

以上の分析に基づき、採集した全ての対応形を検討して、当該の例は「～切る⇒①다50(완전히16・뻔히2・아주2・꼭1・꽂꽂1・단단히1・명확히1・몹시1・상당히1・일일이1・잘1・전부1・정말1・제대로1・확실히1) ~하다, ② ~하다」のようにまとめる¹⁶⁾。

4.3 「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」類型

この類型は日本語のV1が韓国語の副詞に対応し、その副詞がV2を修飾するものである。具体例としては以下のようなものが挙げられる。V1の省略が文の適格性には影響を与えず、結果的に、V2が統語的にも意味的にも中心的な構成要素となる。

- (24)a. 敵のオオカミの群れに出会ったとき、相手を打ち負かすことができるかどうかを判断するために、
 (後略)
- b. 적인 이리 떼를 만났을 때, 상대를 완전히 패배시킬 수 있는지 어떤지를 판단하기 위해서, (후략) (독해

16) この整理には、上記の例の他に「分かり切る→뻔히 알다(吾輩 : 148, 191)・ 잘 알다(라쇼몽 : 43, 135)、澄み切る→아주 맑다(은하철도 : 56, 57)、締め切る→꼭 단다(명작 : 83, 139)・ 단단히 잠그다(단어장 : 70)、冷え切る→꽂꽂 알다(한권 : 320)、割り切る→명확히 구분하다(한권 : 564)、疲れ切る→몹시 지치다(한권 : 628)、慣れ切る→상당히 익숙하다(라쇼몽 : 80, 145)、対応し切れていない→일일이 대응하지 못하다(단어장 : 407)、抱え切る→전부 안다(딱600 : 247)、憎み切る→정말 증오스럽다(명작 : 63, 134)、払拭し切れない→제대로 불식시키지 못하다(기출20독 : 505)、知れ切る→확실히 알다(吾輩 : 147, 190)のような対応形が反映されている。なお、「借り切る→통째로 빌리다」(헨리 : 97, 139)と「堪え切る→끝까지 참다」(여학생 : 123, 159)に見られる「통째로, 끝까지」は『표준국어대사전』に収録されている副詞ではないため、反映していない。

N1 : 164, 193)

- (25)a. 民子は分けてやった半分の野菊を顔に押しあてて嬉しがった。
 b. 타미코는 나누어 준 절반의 들국화를 얼굴에 바싹 대고 기뻐했다. (들국화 : 50, 154)
- (26)a. しかし、その影はかき消され、言葉は失われてしまう。
 b. 그러나 그 모습은 완전히 지워지고 말은 사라져 버린다. (중학교 상 : 20, 21)
- (27)a. リエが、スカートのポケットからにぼしをつまんで、ぼくの鼻さきにつきだした。
 b. 리에가 치마 주머니에서 말린 멀치를 집어서 내 코앞에 쑥 내밀었다. (5학년 : 130, 131)
- (28)a. 大きな玄関へ突っ立って頼むと言うと、(後略)
 b. 커다란 현관에 우두커니 서서, "계십니까?" 했더니 (후략) (도련님 하 : 67, 196)
- (29)a. (前略) 笑顔でその場を取り繕った.
 b. (전략) 웃는 얼굴로 그 상황을 적당히 얼버무렸다. (시나공 : 425)
- (30)a. おれは (中略) 冷たい水を頭からぶっかけてやった。
 b. 나는 (중략) 차가운 물을 머리에서부터 마구 끼얹어줬지. (헨리 : 54, 126)

(24)의 「打ち負かす」は〈完全に負かす〉、(25)의 「押し当てる」は〈強く当てる〉¹⁷⁾、(26)의 「掻き消す」は〈すっかり消す〉、(27)의 「突き出す」は〈勢よく前へ出す〉、(28)의 「突っ立つ」は〈ぼんやりと立つ〉、(29)의 「取り繕う」は〈過失などを、その場だけなんとかうまくごまかす〉、(30)의 「ぶっかける」は〈乱暴にあびせかける〉という意味で、それぞれの下線部の意味が韓国語の副詞と対応すると分析できる。前述の(15)~(16)の例とは「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」のような同一の一般化が可能であるという点で共通するが、以下の操作から確認できるように、V1を削除した文が成立するかどうかという点では区別される。(15)~(16)の例と区別して、独立した類型として別扱いはこのためである。

- (31)a. 地面の穴に腕を突っ込んでいます。(=16a)
 b. *地面の穴に腕を込んでいます¹⁸⁾。
- (32)a. リエが、スカートのポケットからにぼしをつまんで、ぼくの鼻さきにつきだした。(=27a)
 b. リエが、スカートのポケットからにぼしをつまんで、ぼくの鼻さきにだした。

この類型に該当するものは合計18例が確認され、具体例としては多くはないが、韓国語の副詞との対応関係を整理するにおいては、(24)~(30)のようなV1の存在も見逃すべきではないだろう。なお、これら「打ち~、押し~、掻き~、突き(突っ)~、取り~、ぶっ~」に関しては「接頭辞」と扱うことがあり(石井2001 : 66)、すると、(24)~(30)の例は派生動詞と分類することも可能である。しかし、本稿では「動詞の連用形(または動詞連用形の音便形)」という「形態」を重視して複合動詞として扱っている。ちなみに、村木(1991 : 41-44)は、「あい~・おし~(おっ~)・うち~・ひき~(ひっ~・ひん~)・とり~(とっ~)・ぶち~(ぶっ~・ぶん~)・さし~・かき~(かっ~)」を挙げ、これらを語基とみるか、接辞とみるかについて論じる上で、複合語と派生語の差異は連続的であると指摘している。

17) 『日本国語大辞典』(第二版)における「押し当てる」の第一義は、〈力を加えてものをつける。おさえておおう。おしつける〉のように語釈されている。(25b)における「바싹」は、〈아주 가까이 달라붙거나 죄는 모양〉の意として解釈するのが一般的であると思われるが、多義語の「바싹」には、〈아주 긴장하거나 힘을 주는 모양〉という意味もある(例 : 동현 울타리 밖에는 사람들이 모여들어 바싹 귀를 기울이고 있었는데, (후략) 『표준국어대사전』)。

18) 現代語の「込む」には自動詞の働きしかない(姫野1999 : 60)。

4.4 「J(V1+V2)⇒K(V)」類型

本節の最後に議論するのは、(4)の「抜け出す→살짝 빠져 나오다」の例を通して問題提起した類型である。具体的には、韓国語において「副詞+動詞」形と訳されているものの、その「副詞」の存在が問題となり、結果的に「J(V1+V2)⇒K(V)」のように、副詞の見られない対応形に一般化できるものである。今回の調査では以下のようなものが採集できた。

- (33)a. 丸太をそこへ縛りつける。
 b. 통나무를 거기에 꽂꽂 묶어라. (중학교 하: 54, 55)
- (34)a. そんな私を見てか友達の麻子が私を見つけて、駆け寄ってきた。
 b. 그런 내가 눈에 띄었는지 친구인 아사코가 나를 발견하고 성큼 다가왔다. (리브: 157, 218)
- (35)a. ある寒い夜、山の中に、体はやせ細った、今にも死んでしまいそうな人がいました。
 b. 어느 추운 밤, 산 속에 몸은 바삭 마르고 당장이라도 죽어버릴 듯한 사람이 있었습니다. (딱800: 203, 204)

(33)の「縛り付ける」は〈ある物に縛って離れないようにする〉という意味で、そこには縛り付ける強度までは含意しないと思われる。「ぎゅうぎゅうに縛り付ける/きつく縛り付ける」と「緩く縛り付ける/軽く縛り付ける」が両方とも成立するのはそのためであろう。もし、当該の例に「ぎゅうぎゅうに/きつく」のような意味が含まれているのであれば、後者の文は意味上の不整合によって適格性に問題が生じてしまう。結論的に、動詞本来の意味に忠実に従うのであれば、(33a)の対応形としては「통나무를 거기에 묶어라」で十分で、(33b)の「꽂꽂」という副詞は複合動詞の意味を強調するために翻訳の段階で任意に付加した要素と分析できる。当該の副詞が必須の意味ではないという点は、それを削除しても翻訳文の適格性には影響を与えないという点と整合する。(34)~(35)の場合も同様で、〈走ってそばへ寄る〉〈痩せて細くなる〉というそれぞれの意味を考慮すると、「성큼」「바삭」という副詞はそれぞれの例の本義に含まれるものとは言いにくい。

- (36)a. 高層マンションが立ち並ぶ都心の住宅地です。
 b. 고층 맨션이 죽 늘어선 도심의 주택지입니다. (기출20청: 106)
- (37)a. うちの学科の女子も参加するとか盛り上がってたけど、(後略)
 b. 우리 학과 여자에게도 참가한다고 한껏 고조되어 있는데, (후략) (실전N1: 194)

(36)の「立ち並ぶ」と(37)の「盛り上がる」の場合も、〈並んで立っている〉〈物事の勢いが高まってくる〉というそれぞれの意味を考慮すると、「죽」「한껏」という副詞は翻訳の段階で任意に付加した要素と分析できる。このように分析した背景には、22件の「立ち並ぶ」と31件の「盛り上がる」の用例のうち、副詞形の訳は(36)と(37)の一例ずつであったことも反映されている。

この類型に属する具体例はそれほど多くはなかったものの、日本語の複合動詞をより正確に理解するためには、上記のような例に見られる対応関係にも注目する必要があると本稿では考える。なお、李(2015: 185-186)では、俞長玉(1993: 176)の「膨れ上がる→뭉치 부어 오르다」のようなこの類型に分類できる例に対して、先行研究における「対応形の類型分類の精密化の問題」として取り扱っているので、参照されたい。

5. 日本語の複合動詞と韓国語の副詞との対応関係

前節の四つの類型を「趙(2018)などの先行研究リスト・採集した用例数・日本語教育現場での活用・要注意の個別例・後続研究での更なる検討」といった観点から総合的に見た場合、韓国人学習者にとってより重要なものは、4.1.と4.2.の類型の例であると判断される。そこで、4.1.と4.2.で取り上げた具体例を含め、今回の調査を通して整理した目録を本稿では表2のように提示する。なお、用例数における斜線の左側の数字は副詞形の訳の用例数で、右側の数字は当該例の合計の用例数である。副詞の右側の数字を合計すると、斜線の左側の数字になる。また「生越」は、2節で概観した生越(1984)を意味し、紙面の都合上、生越(1984)の「I-A/I-A・II-B/II-B/II-C」の分類は順に「A/AB/B/C」と表記した。「×」は生越(1984)では取り上げられていないもの、つまり、本稿の調査を通して新しく追加したものである。生越(1984)の37語の中で今回の調査で4.1.と4.2.の類型の例が確認されていないものは〈表2〉には入っていない。ただし、〈表3〉に「～違う」「～出す」「～忘れる」の例が1例ずつ含まれている。

〈表2〉 日本語の複合動詞と韓国語の副詞との対応関係の目録

番号	日本語	用例数	韓国語の対応形	生越
1	～続ける	197/238	①계속196(출근1) ~하다	A
2	～終わる	48/59	①다47(전부1) ~하다	A
3	～尽くす	33/40	①다16(모두5·완전히3·가득2·전부2·내내1·평하니1·온통1·우두커니1·잘1) ~하다	A
4	～果てる	6/23	①몹시2(다2·완전히1·너무나1) ~하다	×
5	～熟す	7/13	①잘6(다1) ~하다 ¹⁹⁾	A
6	～干す	4/13	①다4 ~하다 (13例全て「飲み干す」)	×
7	～損なう	6/11	①잘못4(못2) ~하다	AB
8	～終える	5/8	①다4(모두1) ~하다	A
9	～通う	6/7	①서로5(많이1) ~하다 (7例全て「似通う」)	×
10	～捲る	5/6	①계속3(마구2) ~하다	A
11	～間違える	4/5	①잘못4 ~하다	A
12	～こける	2/5	①곤히1(몹시1) ~하다	×
13	～透く	2/5	①다 뻥히1(뻥히1) ~하다 (5例全て「見え透く」)	×
14	～占める	2/4	①모조리1(전부1) ~하다 (4例全て「買い占める」)	×
15	～備える	2/3	①모두1(함께1) ~하다 (3例全て「兼ね備える」)	×
16	～飛ぶ	2/3	①깨끗이1(확1) ~하다 (3例全て「吹き飛ばす」)	×
17	～果たす	3/3	①다3 ~하다 (3例全て「使い果たす」)	×
18	～呆ける	2/3	①실컷1(정신없이1) ~하다 (3例全て「遊び呆ける」)	×
19	～古す	2/3	①오래2 ~하다	×
20	～開ける	1/2	①억지로1 ~하다 (2例全て「押し開ける」)	×
21	～揃う	2/2	①다1(모두1) ~하다 (2例全て「出揃う」)	×
22	～盛る	2/2	①맹렬히1(활활1) ~하다 (2例全て「燃え盛る」)	×
23	～間違う	2/2	①잘못2 ~하다 (2例全て「見間違う」)	A
24	～誤る	1/1	①잘못1 ~하다	A
25	～損じる	1/1	①잘못1 ~하다	AB
26	～起きる	10/12	①벌떡10 ~하다	×
27	～込む	64/1041	①골똘히9(뚝7·깊숙이4·철저히4·가득3·깊이3·폭3·계속2·몹시2·아주2·잘못2·넙다1·많이1·불쑥1·옴퐁1·잔뜩1·철석같이1·한꺼번에1·함께1·홀딱1) ~하다, ②몰래5(쑥5·깊이3·마구1) ~하다, ③~하다	×
28	～上げる	13/640	①다9(잘2·무사히1·바짝1) ~하다, ②~하다	A
29	～付ける	15/621	①억지로5(늘3·급히2·마구2·단숨에1·몹시1·부랴부랴1) ~하다,	A

			②~하다	
30	~合う	191/583	①서로166(같이8·잘7·함께6·서로서로1·몹시1·빽빽이1·제대로1) ~하다, ②~하다	A
31	~付く	5/391	①겨우2(가까이1·간신히1·찰싹1) ~하다, ②~하다	×
32	~上がる	17/350	①다8(펼쩍3·경중2·전부1·벌떡1·벌벌1·부들부들1) ~하다, ②~하다	×
33	~過ぎる	177/319	①너무94(너무 많이71·많이4·너무 가까이2·너무 잘2·너무 빨리1·너무 열심히1·더 많이1·자꾸1) ~하다, ②~하다	A
34	~切る	82/292	①다50(완전히16·뻥히2·아주2·꼭1·꽝꽝1·단단히1·명확히1·몹시1·상당히1·일일이1·잘1·전부1·정말1·제대로1·확실히1) ~하다, ②~하다	A
35	~返す	13/247	①다시12(계속1) ~하다, ②~하다	A
36	~替える	34/240	①새로25(다시7) ~하다, ②모두1(살짝1) ~하다 ²⁰⁾ , ③~하다	×
37	~直す	122/209	①다시116(새로5·바로1) ~하다, ②~하다	A
38	~掛かる	14/158	①마침5(막5, 다3, 우연히1) ~하다, ②~하다	B
39	~合わせる	29/145	①마주14(미리5·서로4·마침2·함께2·우연히1·우연히 같이1) ~하다, ②~하다	×
40	~返る	4/125	①아주2(다시1·확싹1) ~하다, ②~하다	×
41	~立てる	10/121	①특별히5(계속2·높이1·마구1·일일이1) ~하다, ②~하다	×
42	~会う	8/118	①우연히6(딱2) ~하다, ②~하다	×
43	~詰める	6/116	①다2(깊이1·뻥히1·빠꼭히1·빈틈없이1) ~하다, ②~하다	×
44	~回る	3/108	①이리저리3 ~하다, ②~하다	×
45	~兼ねる	2/91	①몹시1(못1) ~하다, ②~하다	B
46	~立つ	10/90	①우뚝7(높이1·펼쩍1·활활1) ~하다, ②~하다	×
47	~回す	2/87	①이리저리1 ~하다, ②휘휘1 ~하다, ③~하다	×
48	~入る	5/84	①깊이1(물끄러미1·열심히1·정신없이1) ~하다, ②깊이1 ~하다 ²¹⁾ , ③~하다	×
49	~抜く	13/83	①몹시5(곰곰이2·속속들이2·계속1·다1·많이1·아주 잘1) ~하다, ②~하다	A
50	~送る	4/62	①그냥4 ~하다, ②~하다 (副詞形4例全て「見送る」)	×
51	~寄る	9/57	①가까이2(바싹2·살그머니2·살금살금1·살며시1·조금씩1) ~하다, ②~하다	×
52	~渡す	4/57	①멀리2(널리1·죽1) ~하다, ②~하다 (副詞形4例全て「見渡す」)	×
53	~去る	2/53	①깨끗이1(완전히1) ~하다, ②~하다	×
54	~通す	8/46	①계속5(다2·내내1) ~하다, ②~하다	A
55	~締める	11/42	①꼭7(꼭3·깊이1) ~하다, ②~하다	×
56	~分ける	2/40	①따로2 ~하다, ②~하다 (副詞形2例全て「使い分ける」)	×
57	~切れる	15/38	①다15 ~하다, ②~하다	×
58	~落とす	2/36	①못2 ~하다, ②~하다 (副詞形2例全て「見落とす」)	AB
59	~逃す	5/35	①못5 ~하다, ②~하다	×
60	~通る	3/34	①버젓이2 ~하다, ②흠뻑1 ~하다, ③~하다	×
61	~直る	8/33	①다시6 ~하다, ②갑자기2 ~하다 ²²⁾ , ③~하다	×
62	~放す	2/32	①활짝2 ~하다, ②~하다	×
63	~ずる	13/28	①질질12(억지로1) ~하다, ②~하다 (副詞形13例全て「引き摺る」)	×
64	~渡る	12/24	①두루4(활짝4·널리3·고루1) ~하다, ②~하다	×
65	~続く	15/20	①계속15 ~하다, ②~하다 ²³⁾	×
66	~過ごす	3/19	①그냥2 ~하다, ②너무 많이1 ~하다, ③~하다	×
67	~届く	7/17	①잘5(두루2) ~하다, ②~하다 (17例全て「行き届く」)	×
68	~散らす	2/12	①마구2 ~하다, ②~하다	×
69	~置く	3/11	①그대로3 ~하다, ②~하다	×
70	~違える	2/11	①잘못2 ~하다, ②~하다	A
71	~くねる	2/6	①꼬불꼬불1(구불구불1) ~하다, ②~하다 (6例全て「曲がりくねる」)	×
72	~交わす	2/5	①서로2 ~하다, ②~하다	×

73	～澄ます	2/3	①잘2 ~하다, ②~하다 (副詞形2例全て「研ぎ澄ます」)	×
----	------	-----	--------------------------------	---

26番の「～起きる」を境界に²⁴⁾、上部の例が4.1.の類型のもので、下部の例が4.2.の類型のものである。合計すると、表2の副詞形の訳は1,334例となる。この目録から導き出せる結果として、本稿では以下の2点を報告する。

第一に、副詞形の訳の用例数という観点からすると、「～続ける(197件)・～合う(191件)・～過ぎる(177件)・～直す(122件)・～切る(82件)・～込む(64件)」のような例が上位ランキングを占めており、これらは高頻度のものとしても挙げられる。また、生起した副詞の種類という観点からは、「～尽くす(10種)・～付ける(7種)・～上がる(7種)・～合わせる(7種)・～抜く(7種)」のような例も注目に値する。本稿では当該の11語を「韓国語の副詞との対応関係において相対的に重要度の高いもの」と位置づける。ちなみに、趙(2018)は韓国人学習者が優先的に学習すべきものとして、日本人大学生が多用する「断ち切る・追い抜く・言い切る・押し通す・入り込む・駆け込む・引き抜く・突き通す・貫き通す」の9語の複合動詞を提示しているが、「～通す」の3語を除いて残りの6語は上記の11語の範囲内のものであり、趙(2018)の調査結果からも当該の11語の重要度が窺える。

第二に、便宜上、「다 뻔히」のようなものを一つの副詞と見做すと、表2には延べ語数で230語の韓国語の副詞が収録されており、異なり語数で言えば、その数は130語となる。そして、生起した回数という観点から、主な韓国語の副詞と各副詞との対応関係が認められる日本語の複合動詞を挙げると、表3の通りである。

〈表3〉 主な韓国語の副詞と日本語の複合動詞

番号	副詞	V2の数	具体例
1	다	15語	～終わる・～尽くす・～果てる・～干す・～終える・～果たす・～揃う・～上げる・ ～上がる・～切る・～掛かる・～詰める・～抜く・～通す・～切れる
2	계속	8語	～続ける・～捲る・～込む・～返す・～立てる・～抜く・～通す・～続く
3	몹시	8語	～果てる・～こける・～込む・～付ける・～合う・～切る・～兼ねる・～抜く

19) ちなみに、副詞「다」の例文は「例えば、前述の缶詰の使用法を読みこなせるだけの力でさえ、(後略)→예를 들면 앞에서 언급한 통조림 사용법을 다 해독할 만한 실력조차 (후략)」(완벽N1: 325, 74)である。このような訳を通して、翻訳する際の様々な対応形の生起可能性が見て取れる。

20) 具体例は「塗り替える→모두 바꾸다」(한권: 545)と「すり替える→살짝 바꾸다」(완벽N2: 306)である。それぞれ〈前とはすっかり違ったものにする〉〈人に気づかれないように、こっそりと別のものに取り替える〉という意味である。

21) 具体例は「立ち入る→깊이 파고들다」(KING: 728)であり、「感じ入る→깊이 감동하다」(합격: 220)とは区別される。ちなみに、当該の2例はそれぞれ〈深くはいりこむ〉〈すっかり感心する〉という意味である。

22) この副詞形の訳は、「開き直る→갑자기 태도를 바꾸다」(시나공: 228)と「居直る→갑자기 돌변하다」(독해: 129, 271)の2例のために設けたものである。それぞれ〈急に態度を変えて厳しくなる〉〈急に態度を変える〉という意味であり、両方もV1からもV2からもその意味が把握しにくいという点で共通する。

23) 「三百年もひきつづいてその生命を持ち、(後略)→3백 년이나 계속해서 그 생명을 유지하고 (후략)」(교과서: 73, 107)のように用いられた「引き続く」も2例あったが、これらは「雨が降り続く」のような例と種類が違う。

24) 「～起きる」は、7件の「飛び起きる」と5件の「跳ね起きる」の用例が採集されており、全て「벌떡 일어나다」に訳せる。〈飛びあがるように勢いよく起きる〉〈はねるようにして勢いよく起きる〉というそれぞれの意味を考慮すると、V1が「벌떡」に対応すると分析できる。採集した全ての例が副詞形に訳せるという点では4.1.の類型と共通し、一方、V1が副詞に対応するという点では4.2.の類型に含まれる。意図的に「～起きる」を境界部に位置させたのはそのためである。

4	잘	7語	~尽くす・~熟す・~上げる・~合う・~切る・~届く・~澄ます
5	잘못	7語	~損なう・~間違える・~間違う・~誤る・~損じる・~込む・~違える
6	깊이	6語	~込む2・~詰める・~入る2・~締める
7	다시	5語	~返す・~替える・~直す・~返る・~直る
8	마구	5語	~捲る・~込む・~付ける・~立てる・~散らす
9	모두	5語	~尽くす・~終える・~備える・~揃う・~替える

本稿では〈表3〉の9語の副詞を「日本語の複合動詞と密接に関連する重要度の高い副詞」と位置づける。なお、〈表3〉のような目録は類義語分析にも活用できる。例えば、今回の調査では「다 읽다」の日本語として「読み上げる・読み終える・読み終わる・読み切る・読み通す」の5語が採集できたが、『複合動詞資料集』には「読み果てる」も収録されており(野村・石井1987:177)、これらがそれぞれどのように違うかについての考察は一つの研究テーマになり得る。また、その延長線として、「다 읽다」の日本語として「?読み干す・*読み揃う・*読み詰める」のようなものはなぜ成立しにくいのかについても検討の対象になるだろう。

〈表4〉「J(V1+V2)⇒K(①Adv+V、②V)」類型のうち、副詞形の訳が1例のみのもの

<p>食い荒らす→마구 먹다(달인:454)、練り歩く→천천히 행진하다(도련님 하:110, 209)、並み居る→나란히 앉다(吾輩:94, 174)、巻き起こる→잡자기 일어나다(시나공:284)、滴り落ちる→뚝뚝 떨어지다(한권:323)、振りかざす→번쩍 치켜들다(모의N1:20, 27)、積み重ねる→겹겹이 쌓다(딱800:14)、踏み固める→꽉 디디다(6학년:136, 137)、生まれ変わる→다시 태어나다(기출10:138, 129)、忌み嫌う→극히 꺼리다(한권N2:312, 351)、好き好む→굳이 좋다(다다익선:20, 215)、(霧が)立ち込める→(안개가) 잔뜩 끼다(한권실전N1:9, 100)、掘り下げる→깊이 파고들다(모의N1:120, 95)、降りきる→내리 퍼붓다(달인:685)、堪え忍ぶ→꼭 참다(달인:552)、引き締まる→꽉 죄어지다(한권N1:250)、思い知る→몸소 느끼다(모의N1:26, 30)、抱きすくめる→꽉 껴안다(명작:65, 134)、寄り添う→바짝 달라붙다(요리:32, 33)、切り揃える→가지런히 자르다(기출10:273, 134)、洗い出す→철저히 확인하다(단어짱1:51)、売り叩く→마구 팔아치우다(시나공:511)、入れ違う→잘못 들어가다(시나공:567)25)、こき使う→사정없이 부러먹다(고양이:48, 49)、燃え尽きる→완전히 시들하다(독해N1:166, 195)、這いつくばう→납작 엎드리다(시나공:370)、(風が)吹きつる→(바람이) 점점 심해지다(KING:732)、塗り潰す→온통 칠하다(단어장:448)、しゃしゃり出る→덤석 나서다(고양이:92, 93)、蹴飛ばす→멀리 차다(KING:717)、飛び退く→재빨리 뒤로 물러서다(첼로:40, 123)、踏みはずす→잘못 밟을 디디다(여학생:121, 158)、酔っ払う→잔뜩 취하다(기출10:226, 10)、満ち満ちる→그득 차다(라소풍:110, 153)、併せ持つ→함께 가지다(기출10:34, 18)、取り寄せる→가까이 다가놓다(KING:737)、書き忘れる→안 적다(모의해설N1:72)</p>
--

〈表4〉は、紙面の都合上、4.2の類型に属するものの中で、副詞形の訳が1例のみのものを提示したものである。合計すると、37例になる。例の中で「満ち満ちる / 積み重ねる・忌み嫌う・好き好む・堪え忍ぶ」のような例は、同じ動詞または類義語関係の動詞が結合したものであり、それぞれの対応形として副詞形の訳が生じたことには興味深いものがある。なお、表2と表4に含めていないものとして、3件の

25) 「出席者の名簿の名前が入れ違っていた→출석자 명부의 이름이 잘못 들어가 있었다」(시나공:567)の「入れ違う」は〈まちがってはいる〉という意味であり、韓国語では「잘못 들어가다」に訳されている。この場合、ガ格名詞はV2と格支配関係にある(*名前を入れる/名前が違う)。ちなみに、『大辞林』(第三版)では〈順序や場などを間違えて入れる〉の例文「順番を入れ違う」が挙げられており、この場合は「잘못 넣다」に訳され、ヲ格名詞はV1と格支配関係にあることになる(順番を入れる/*順番を違う)。結果的に「入れ違う」は、ガ格名詞もヲ格名詞も取れる自他両方の用法を持つもので、この特徴は「一新する・営業する・オーバーする・解散する・加速する」(加藤2006:30-31)のような例と同様である(飲食店が営業する / 飲食店を営業する)。

「出くわす→우연히 만나다(끝내기:344)·딱 마주치다(단어짚1:241)」の用例があり、これらも含めて、表面上「副詞+動詞」形に訳されている1,488例のうち、最終的に4.1.~4.4.の類型のものとして認めたものは合計1,460例である。

本稿の目標の目録を表2と表4のように提示し、全体を眺めてみると、生越(1984)と比べて、考察範囲が拡大されていること、また、考察結果が韓国人学習者により分かりやすい形で提供されていることが確認できよう。結論的に、2節で本稿の差別化ポイントとして挙げた2点は達成できたことになる。以下、〈表2〉と〈表4〉の目録について2点の補足説明を行い、本節を閉じることにする。

第一に、〈表2〉の目録は、26番の「~起きる」を境界に、副詞形の訳のみの例とそうではない例、つまり、4.1.の類型と4.2.の類型とに二分されているが、これはあくまでも今回の調査結果に基づいた区分である。上部の例の場合、採集した全ての例を「副詞+動詞」形に訳すことができたが、もし、そのようには訳せないものが見つかるのであれば、その例は26番の下の方に配属されることになる。ちなみに、26番に点線を施したのは具体例の移動可能性を念頭に置いたためであるが、具体例の確保次第で、上部の例が下部の方に移動することはあっても、非副詞形の訳が確認された以上、その逆の移動はない。また、今後、同一の副詞に訳せる具体例が確保できれば、表4の例が表2の例に含まれるのは当然のことである。

第二に、各例における韓国語の副詞は類似関係にある他の副詞と交換可能であり、提示されている副詞のみを用いて対応させるべきであるという意味ではもちろんない。65番の「~続く」の場合、「졸곧」 という副詞の生起は見られなかったが、「雨が降り続けている→비가 졸곧 내리고 있다」のような対応関係の成立も十分あり得る。

6. まとめと今後の課題

本稿は日本語の複合動詞に対応する韓国語の副詞を抽出し、その目録を提示したものである。具体的には、62冊の資料から合計13,693件の複合動詞の用例と韓国語訳を採集し、データベースを構築した。その後、綿密な分析を通して、韓国語の副詞との対応関係が認められる日本語の複合動詞を対象に、1) 「J(V1+V2)⇒K(Adv+V1)」類型、2) 「J(V1+V2)⇒K(①Adv+V, ②V)」類型、3) 「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」類型、4) 「J(V1+V2)⇒K(V)」類型のような区分を試みた。そして、この四つの類型のうち、韓国人学習者にとってより重要なものとして1)と2)の類型に注目し、それぞれに属する具体例を「~続ける⇒①계속 196(졸곧1) ~하다」「~込む⇒①골똘히9(뚝7·깊숙이4·철저히4·가득3·깊이3·꼭3·계속2·몹시2·아주2·잘못2·넙다1·많이1·붙씩1·움푹1·잔뜩1·철석같이1·한꺼번에1·함께1·홀딱1) ~하다, ②물래5(씩5·깊이3·마구1) ~하다, ③~하다」のような形で提示した。本稿で提示した目録は、日本語教育・韓国語教育の現場で有用な参考資料として活用することができ、また、日本語の複合動詞に関する後続研究を行う際にも役立つものと期待される。

今後の課題としては、本稿で位置づけた重要度の高い例を中心に、対応形の全体像が把握できるように整理することが挙げられる。研究の目的上、本稿では「副詞優先の包括的な韓国語の対応形」を提示したが、今後は個別例ごとに検討し、対応形に対して更なる細分類を行う予定である。例えば、上記の「~込む」なら、24語の副詞を「~込む」の意味用法に従って再分類し、また「③~하다」に対しても詳細な分類を試みる。このような方法で整理し、考察結果を蓄積していけば、その成果は日本語の複合動

詞の理解と習得に貢献するだろう。

【参考文献】

- 고영근·구본관(2008) 『우리말 문법론』 집문당 p.231
- 김창섭(1981) 「現代國語의 複合動詞 研究」 『國語研究』 47 國語研究会 pp.1-98
- 羅聖榮(1982) 「韓·日語 複合動詞의 類型分析」 『日本学誌』 2(3) 啓明大学校 國際学研究所 日本研究室 pp.133-166
- 박용일(2010) 「일본어 교육을 위한 일본어 복합동사와 이에 대응하는 한국어 패턴의 고찰」 『日本研究』 46 韓國外國語大学校 日本研究所 pp.367-381
- 卞相範(2004) 「日本語 複合動詞의 類型分析—韓國語 対応様相을 中心으로—」 『日本語文学』 26 日本語文学會 pp.85-130
- 서정수(2006) 『국어문법』 한세본 p.757-769
- 양호성(2013) 「일본어 복합동사의 일한번역에 관한 일고찰—강조 복합동사를 중심으로—」 『일본근대학연구』 39 한국일본근대학회 pp.67-86
- 오쿠무라유지·임단비(2009) 『러브 스토리 일본어』 다락원 p.38
- 兪長玉(1993) 「日本語 複合動詞의 類型分析—韓國語의 対応様相을 中心으로—」 『어문학연구』 6 대구가톨릭대학교 인문과학연구소 pp.151-241
- 이경수(2010) 「번역원전을 활용한 일본어복합동사표현의 연구—어휘적복합동사「こむ」의 다양성을 중심으로—」 『日本学報』 82 韓國日本学会 pp.81-98
- 이익섭·채완(2001) 『국어문법론강의』 학研社 p.70
- 趙南星(2018) 「일본인 대학생의 복합동사 사용에 대한 설문 조사의 분석— -込む, -切る …의 학습어휘 선정을 위하여—」 『日本文化学報』 77 韓國日本文化学会 pp.293-312
- 石井正彦(2001) 「複合動詞の語構造分類」 『國語語彙史の研究 二十』 和泉書院 pp.59-71
- 李忠奎(2013) 「日韓兩言語의 「並列」 複合動詞について—その下位分類を中心に—」 『日本語文学』 56 韓國日本語文学會 pp.97-117
- (2015) 「複合動詞に関する日韓对照研究の現状と課題」 『日本語文学』 65 韓國日本語文学會 pp.167-195
- (2017a) 「韓國人學習者のための日本語の複合動詞—JPT日本語能力試験対策用のリスト作成—」 『日本文化学報』 73 韓國日本文化学会 pp.89-109
- (2017b) 「韓國人のための複合動詞データベース—現状報告と有効性の検討—」 『日本語文学』 75 韓國日本語文学會 pp.149-167
- 李東哲(2018) 「複合動詞の再分類と日本語教育への示唆—中国語、韓国語母語話者の視点から—」 『한국어어학』 2018년 하계국제학술대회 발표논문집』 韓國日語日文学會 pp.73-79
- 生越直樹(1984) 「日本語複合動詞後項と朝鮮語副詞・副詞的な語句との関係—日本語副詞指導の問題点—」 『日本語教育』 52 日本語教育学会 pp.55-64
- 影山太郎(1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房 p.9 74-97 137
- 加藤重広(2006) 『日本語文法入門ハンドブック』 研究社 pp.30-31
- 齋藤倫明(2000) 「書評姫野昌子著『複合動詞の構造と意味用法』」 『国語学』 51(1) 日本語学会 pp.140-146
- 城田俊(1998) 『日本語形態論』 ひつじ書房 pp.152-154

野村雅昭・石井政彦(1987) 『複合動詞資料集』 国立国語研究所 p.177
 姫野昌子(1999) 『複合動詞の構造と意味用法』 ひつじ書房 p.16-19, 31 59-82 173-195
 森田良行(2007) 『基礎日本語辞典』 角川学芸出版 p.549 835
 村木新次郎(1991) 『日本語動詞の諸相』 ひつじ書房 pp.41-44
 由本陽子(2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語』 ひつじ書房 p.107

< 辞書類 >

『표준국어대사전』 (1999) (<http://stdweb2.korean.go.kr/main.jsp>) 국립국어연구원
 『大辞林』 (第三版) (<https://kotobank.jp/dictionary/daijirin/>) 小学館
 『デジタル大辞泉』 (<https://kotobank.jp/dictionary/daijisen/>) 小学館
 『日本国語大辞典』 (第二版) 小学館

< 用例採集の資料 > (データベースの収録順、年度は各教材の最新号)

윤준호・박재욱(2010) 『유형별・주제별로 똑똑하게 정리한 JPT 보카 한권으로 끝내기』 다락원(→보카)/이종권(2012) 『JPT 답이 보이는 단어장』 YBM더텍스트(→단어장)/강성광(2015) 『한권으로 끝내는 JPT VOCA 개정판』 YBM더텍스트(→한권)/강성광(2014) 『일본어 어휘의 달인이 되는 법 최신개정판』 사람in(→달인)/JPT초고수위원회(2015) 『시나공 일본어 VOCA 15000』 길벗이지톡(→시나공)/김기범(2012) 『JLPT・JPT VOCA KING』 성안당(→KING)/서경원(2015) 『JPT 점수를 확 올려주는 5가지 시험요령&30가지 급소포인트』 시사일본어사(→급소)/서경원・오유유키오(2015) 『다다익선 JPT 독해 PART 5/6/7』 YBM더텍스트(→독해)/서경원(2013) 『다다익선 JPT 독해 PART 8』 YBM더텍스트(→다다익선)/허윤정(2015) 『JPT 정기시험 기출문제 1000』 YBM더텍스트(→기출10)/서경원(2013) 『JPT 기출 2000 청해』 YBM일본어(→기출20청)/서경원(2015) 『JPT 기출 2000 독해』 YBM더텍스트(→기출20독)/이장우(2014) 『600점에 딱 맞춘 JPT』 사람in(→딱600)/이장우(2013) 『800점에 딱 맞춘 JPT』 사람in(→딱800)/허윤정・최지연(2015) 『JPT 답이 보이는 실전모의고사1』 YBM일본어(→실전)/오쿠무라유지・임단비(2015) 『NEW 일본어 단어장 N1 N2』 예스북(→NEW)/황미진(2012) 『내 손안에 NEW JLPT 합격 단어장 N1-N2』 넥서스(→합격)/송규원・이윤혜(2015) 『JLPT N1 단어장』 시사일본어사(→단어장1)/김숙경・우선희(2015) 『JLPT N2 단어장』 시사일본어사(→단어장2)/신지윤・최민경(2015) 『JLPT N3 단어장』 시사일본어사(→단어장3)/김성곤(2016) 『JLPT 한권으로 끝내기 보카』 다락원(→끝내기)/강석기・허윤정(2015) 『한권으로 끝내는 JLPT VOCA N1・N2・N3』 YBM더텍스트(→VOCA)/이치우・北嶋千鶴子(2016) 『일본어능력시험 한권으로 끝내기 N1/부록 : 실전모의테스트 문제집』 다락원(→한권N1/한권실전N1)/이치우・北嶋千鶴子(2016) 『일본어능력시험 한권으로 끝내기 N2/부록 : 실전모의테스트 문제집』 다락원(→한권N2/한권실전N2)/이치우・北嶋千鶴子(2016) 『일본어능력시험 한권으로 끝내기 N3/부록 : 실전모의테스트 문제집』 다락원(→한권N3/한권실전N3)/이승대・주종관(2015) 『일본어능력시험 한권으로 완벽대비 N1/부록 : 정답&해설집』 길벗이지톡(→완벽N1/완벽해설N1)/이신혜・스미유리카(2016) 『일본어능력시험 한권으로 완벽대비 N2/부록 : 정답&해설집』 길벗이지톡(→완벽N2/완벽해설N2)/신선화(2016) 『일본어능력시험 한권으로 완벽대비 N3/부록 : 정답&해설집』 길벗이지톡(→완벽N3/완벽해설N3)/이장우(2014) 『N2 문자・어휘/문법 한번에 패스하기』 시사일본어사(→패스N2)/이장우(2012) 『N3 문자・어휘/문법 한번에 패스하기』 시사일본어사(→패스N3)/이장우・高橋総(2015) 『N1 독해 한번에 패스하기』 시사일본어사(→독해N1)/이장우・高橋総(2013) 『N2 독해 한번에 패스하기』 시사일본어사(→독해N2)/이장우(2015) 『N3 독해 한번에 패스하기』 시사일본어사(→독해N3)/이종권(2016) 『합격하길 바래! JLPT 실전모의고사 N1』 다락원(→실전N1)/이종권(2016) 『합격하길 바래! JLPT 실전모의고사 N2』 다락원(→실전N2)/이종권(2015) 『합격하길 바래! JLPT 실전모의고사 N3』 다락원(→실전N3)/성윤아・노주현(2015) 『일본어능력시험 N1 실전 모의고사 시즌2/부록 : 정답&해설집』 길벗이지톡(→모의N1/모의해설N1)/이신혜(2016) 『일본어능력시험 N2 실전 모의고사 시즌2/부록 : 정답&해설집』 길벗이지톡(→모의N2/모의해설N2)/신선화(2016)

『일본어능력시험 N3 실전 모의고사 시준2/부록 : 정답&해설집』 길벗이지톡(→모의N3/모의해설N3)/高田敏子・椎名誠・木下順二・星新一・那須正幹(2017) 『일한 대역문고 중급① 일본초등학교 5학년 국어교과서선』 다락원(조주희・백송중訳註)(→5학년)/黒田三郎・高田桂子・那須正幹・立松和平・川村たかし(2016) 『일한 대역문고 중급② 일본초등학교 6학년 국어교과서선』 다락원(조주희・백송중訳註)(→6학년)/俵万智・竹内好・井上ひさし・宮沢賢治(2016) 『일한 대역문고 중급③ 일본중학교 교과서선(上)』 다락원(최재철・조주희訳註)(→중학교 상)/宮沢賢治・太宰治・菊池寛(2012) 『일한 대역문고 중급④ 일본중학교 교과서선(下)』 다락원(최중훈訳註)(→중학교 하)/宮沢賢治(2015) 『일한 대역문고 중급⑤ 미야자와 켄지의 주머니 많은 요리점』 다락원(이현정訳註)(→요리)/宮沢賢治(2012) 『일한 대역문고 중급⑥ 은하철도의 밤』 다락원(고선윤訳註)(→은하철도)/群ようこ(2013) 『일한 대역문고 중급⑦ 고양이 '비'의 이야기』 다락원(조주희・백송중訳註)(→고양이)/생텍쥐페리(2017) 『일한 대역문고 중급⑧ 어린 왕자(上)』 다락원(尾崎達治日訳・訳註)(→왕자 상)/생텍쥐페리(2016) 『일한 대역문고 중급⑨ 어린 왕자(下)』 다락원(尾崎達治日訳・訳註)(→왕자 하)/알퐁스도데(2017) 『일한 대역문고 중급⑩ 마지막 수업』 다락원(尾崎達治日訳・訳註)(→수업)/오쿠무라유지・임단비(2012) 『러브 스토리 일본어』 다락원(→러브)/萩原朔太郎・横光利一・梶井基次郎・国木田独歩・坂口安吾(2014) 『일한 대역문고 고급① 일본고등학교 교과서선』 다락원(최중훈訳註)(→교과서)/宮沢賢治(2012) 『일한 대역문고 고급② 미야자와 켄지의 첼로 켜는 고수』 다락원(남이숙訳註)(→첼로)/夏目漱石(2012) 『일한 대역문고 고급③ 도련님(上)』 다락원(도승렬訳註)(→도련님 상)/夏目漱石(2015) 『일한 대역문고 고급④ 도련님(下)』 다락원(안원실訳註)(→도련님 하)/夏目漱石(2017) 『일한 대역문고 고급⑤ 나는 고양이이다』 다락원(조영석訳註)(→吾輩)/芥川龍之介(2014) 『일한 대역문고 고급⑥ 아쿠타가와 류노스케의 라쇼몽』 다락원(남철희訳註)(→라쇼몽)/太宰治(2011) 『일한 대역문고 고급⑦ 다자이 오사무의 여학생』 다락원(최중훈訳註)(→여학생)/芥川龍之介・太宰治・有島武郎・夏目漱石(2014) 『일한 대역문고 고급⑧ 근대명작단편소설선』 다락원(송현순訳註)(→명작)/伊藤左千夫(2014) 『일한 대역문고 고급⑨ 들국화의 무덤』 다락원(조주희・백송중訳註)(→들국화)/오 헨리(2009) 『일한 대역문고 고급⑩ 오・헨리 걸작선』 다락원(大久保康雄日訳・송현아訳註)(→헨리)/二日市壮・小澤康則・吉本一・黒木了二・Watson Joy(2009) 『New 다락원 일본어 Step 6』 다락원(→다락원)/斎藤仁志・深澤道子・酒井理恵子・中村雅子・吉本恵子(2016) 『シャドーイング 日本語を話そう・中～上級編』 くろしお出版(→세도잉)

〈 요 지 〉

일본어 복합동사와 한국어 부사와의 대응 관계에 관한 연구

본 연구의 목표는 일본어 복합동사에 대응되는 한국어 부사를 추출하여 그 목록을 제시하는 것이다. 62권의 자료에서 총 13,693개의 용례를 수집하여 데이터베이스를 구축하고 면밀한 분석을 통하여 한국어 부사와의 대응 관계를 인정할 수 있는 일본어 복합동사를 대상으로 다음과 같은 유형화를 시도하였다. (J는 일본어, K는 한국어, V1은 전향동사, V2는 후향동사, Adv는 부사)

- 1) 「J(V1+V2)⇒K(Adv+V1)」 유형
(예 : 歩き続ける⇒계속 걷다)
- 2) 「J(V1+V2)⇒K(①Adv+V, ②V)」 유형
(예 : 考え込む⇒골똘히 생각하다, 忍び込む⇒몰래 들어가다, 申し込む⇒신청하다)
- 3) 「J(V1+V2)⇒K(Adv+V2)」 유형
(예 : 打ちあがる⇒완전히 패배시키다)
- 4) 「J(V1+V2)⇒K(V)」 유형
(예 : 縛り付ける⇒?꽂꽂 묶다⇒묶다)

본 연구에서 각각의 유형으로 제시한 일본어 복합동사와 한국어 부사 목록(예 : ~続ける⇒①계속196(줄곧1) ~하다 / ~込む⇒①골똘히9(뚝7·깊숙이4·철저히4·가득3·깊이3·푹3·계속2·몹시2·아주2·잘못2·넙다1·많이1·불쑥1·움푹1·잔뜩1·철석같이1·한꺼번에1·함께1·홀딱1) ~하다, ②몰래5(쑥5·깊이3·마구1) ~하다, ③~하다)은 일본어 교육·한국어 교육 현장에서 유용한 참고 자료로 활용할 수 있고, 일본어 복합동사에 대한 후속 연구에도 충분히 기여할 수 있을 것으로 기대된다.

논문 분야 : 기타 일본어학

키워드 : 일본어 복합동사, 한국어 부사, 대응 관계, 일본어 교육, 한국어 교육

■ 이충규(李忠奎)

서원대학교 조교수

ch4229@hanmail.net

■ 投稿日 :	2018년	12월	31일
■ 審査開始 :	2019년	1월	14일
■ 審査完了 :	2019년	2월	7일
■ 掲載確定 :	2019년	2월	11일